

希少種保護のため営農法(品種切替含む)に地元主導で取り組む

15. 伊尾・小谷地区【広島県世羅町】

範 囲	広島県の中東部に位置する世羅町の、伊尾・小谷地区一帯	
所 在 地	広島県世羅町伊尾、小谷(おたに)	
生 物 地 理 区 分	アカマツ林	
環 境 要 素	水田()、二次林、畑、小川・水路、池沼・湿地、人工林、その他(八田原ダム湛水敷)	
自然条件	地 形	<p>通称「世羅台地」と呼ばれる標高 350m ~ 450 mの台地を形成し、瀬戸内海に流れる芦田川水系と、日本海に流れる江の川水系の分水嶺となっている。</p> <p>芦田川は、500m前後の山が連なる山間部を蛇行して流れている。</p>
	植 生・生物等	<p>芦田川流域の約7割が山林で、アカマツなどが広く分布しており、ブロック北部には、すずらんの南限地で知られる男鹿(おじか)山(633.8m)、女鹿(めじか)山(620.0m)を中心とする連峰や岳山(だけやま)の自然林がある。</p>
社会条件	人口(市町村)	17,550人(農家率38.2%、副業的兼業農家が多い) 世羅町のデータ(H22年)
	土 地 利 用	町総面積の12.4%が田畑、69.5%が山林である。 世羅町のデータ(H22年)
	歴 史・文 化	<p>世羅町は、縄文時代の石器や土器片、弥生時代の集落跡などが多数確認されており、古くから人々が住み生活を営んでいたことがうかがえる。古墳時代には住居跡等の遺跡のほか、康徳寺古墳に代表される数多くの古墳も確認されており、この地域に小集落が形成されていたこと分かる。また当地域の自然風土は農業に適しており、古くから水田が開かれ、大化の改新の際に、五郷を集めた世羅郡が設けられ、荘園が起り、拡大されるにつれて寺院・神社の荘園となり、その庇護を受け、安定して農業を営んできた。</p>
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	該当なし
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	<p>(伊尾・小谷たえクラブ)農水省、農村環境整備センター「田園自然再生コンクール 農林水産大臣賞」受賞(H20)</p> <p>小学校5年の道徳の副読本(光村図書出版「春の女神」)に地元小学校のギフチョウの保護活動が自然環境の大切さを学ぶ教材として掲載。</p> <p>(世羅町立(旧)伊尾小学校)第44回全国野生生物保護実績発表大会「文部科学大臣奨励賞」受賞(H22)『春の女神「ギフチョウ」と里山の守り神「ダルマガエル」の保護活動』</p>



撮影時期：H19年5月
ダルマガエルの生息する水田

伊尾・小谷地区				
取組主体	タイプ	地元集落等:集落、地権者など地元の関係者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		伊尾・小谷コミュニティ	地元集落の住民	
経緯	<p>既存の生息地が造成工事により破壊され保護されたダルマガエルについて、広島県が生息域外保全対策として平成 15～19 年度に当該地域に試験的に放流を行い、それにあわせて地元のダルマガエルの保護活動が活発化した。地元では、水田所有者と生産者からなる集落法人を設立し、放流されたダルマガエルと共存できる農業を推進している。</p> <p>平成 8 年、当該区域内にある八田原ダムの完成間近に水没区域内の雑木林の中で広島県内では特異なミヤコアオイを食草とするギフチョウが発見されたため、隣接の雑木林に保護区を設け、ギフチョウやミヤコアオイを移植し、地元小学校(世羅町立伊尾小学校)による保護活動がはじまった。なお同校は平成 23 年 3 月で閉校し、合併して同年 4 月より世羅町立せらひがし小学校となった。</p>			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	ダルマガエルの試験放流をきっかけに、地元が、ダルマガエルやギフチョウなどが生息できる環境そのものが地域の財産であると認識し、その保護に取り組んでいる。			
取組分野・内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	ダルマガエルが生息できる水田環境の再生:減農薬やダルマガエルの生活サイクルに同調した稲作(米の品種の切替等を含む)を行い、収穫された米は「ダルマガエル米」の名称でブランド化して販売している。		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーリズムの場としての利用	自然観察会		
		環境教育・学習活動	世羅町立(旧)伊尾小学校における理科教育の場として活用	
		里地里山体験・環境保全	世羅町立(旧)伊尾小学校における体験学習の場として活用	
		農林業体験活動		
		エコツアー		
	その他			
野生動植物やその生息地の保全・管理	<p>ダルマガエルが生息できる水田環境の再生:ダルマガエルが生息しやすい米づくり</p> <p>ギフチョウが生息できる里山の復元:地元小学校では地域住民の協力を得て、ギフチョウの食草ミヤコアオイの生育環境の維持活動を実施(草刈り、植え付け等)</p>			
地域の良好な景観の保全・修復	該当なし			
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】	
		資源利用技術		
		その他		
該当なし				
連携・協働	<p>地元集落法人:ダルマガエルの成育に配慮した米作り、ピオトープの設置、地元小学校の環境学習への協力</p> <p>JA、せら夢公園:米の販売、PR</p> <p>県:ダルマガエル保護管理計画の策定</p> <p>動物園:ダルマガエルの室内飼育による放流用オタマジャクシの提供</p> <p>動物園、昆虫館、博物館:地元小学校の理科教育、環境学習への協力</p> <p>広島ダルマガエルの会:放流試験湿地の管理、個体数調査への協力</p> <p>八田原ダム管理所:ギフチョウ保護活動への協力(刈草の処理、スコップの提供、保護区フェンスの設置、ロープの張替)</p>			



撮影時期：H19年5月
水田横につくられたビオトープ池

撮影時期：

景観としての
利用・評価

不明

取組の特徴

ダルマガエルの生息地保護という明確な目標のもと、地域が熱心に取組み成果も現われている。
コミュニティ、集落法人、小学校、農協など地域が連携するとともに、全国的なボランティア組織や動物園等から専門的助言や労務提供を幅広く受け入れており、保護活動に広がりがある。
ダルマガエルのもともとの生息地である三次市吉舎町安田地区でも熱心な保護活動が実施されており、お互いが切磋琢磨することで保護活動のレベルが向上している。
もともとダルマガエルが生息していない世羅町に移植したことは(県が実施)、遺伝子かく乱の問題など賛否両論があるが、放流地の選定に当たっては、専門家の意見を聞いた上で遺伝子かく乱の可能性の少ない場所として選定している。
地元の熱心な活動により、放流個体の野外定着は難しいとされたダルマガエルが、野外において自然繁殖するまでになったことは評価されている。

【参照資料】

社団法人農村環境整備センターHP (<http://www.acres.or.jp/>) 平成20年度田園再生コンクール受賞団体の活動の概要

世羅町HP (<http://www.town.sera.hiroshima.jp/>)

広島県HP (<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/>)

広島県の統計 (<http://db1.pref.hiroshima.jp/Folder01/Frame01.htm>)